

[今すぐ実践！省エネ手法]

食品スーパーで取り組める省エネ手法を紹介します。施設内での省エネ取組みの際にご活用下さい。

食品スーパーの節電チェックシート（夏季）

電力消費の多い機器の節電にご協力をお願いします。

項目	内容	建物全体に対する節電効果	実行チェック	日付
照明	可能な範囲で照明を間引きする。 （労働安全衛生規則基準値（精密作業300Lx、普通作業150Lx、粗な作業70Lx）にもご留意ください。） 店舗の照明を半分程度間引きした際の数値	7.4%		
	使用していないエリア（事務室、休憩室等）や看板、外部照明、駐車場の消灯を徹底した場合の数値	1.6%		
空調	店舗の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げる。 （右記の節電効果は室内温度を26℃から2℃上げた場合の数値） ※熱中症にご注意ください。	1.4%		
	使用していないエリア（事務室、休憩室等）は空調を停止する。	1.5%		
冷蔵・冷凍	可能な範囲で業務用冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	7.0%		

メンテナンスや日々の節電にもご協力をお願いします。

項目	内容	実行チェック	日付
照明	従来型蛍光灯を、LED照明に交換する。（従来型蛍光灯から直管型LED照明に交換した場合、約50%消費電力を削減。）		
	窓際等自然採光部分は消灯する。		
空調	日中の日射を遮るために、ブラインド、カーテン、遮断フィルム、ひさし、すだれを活用する。		
	目詰まりしたフィルターを清掃する。		
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		
	空調機の節電機能（ピークデマンドカット機能等）を活用する。		
	冷凍食品売り場の冷え過ぎに注意し、このエリアの空調設定温度を調整する。		
冷蔵・冷凍	排ガスによる放熱ロスを避けるため、ガス吸収式冷温水機について空気比の適正化を図る。		
	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにすると共に、定期的に清掃する。		
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースについては、冷気が漏れないようにビニールカーテンなどを設置する。		
コンセント動力	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		
	電気式給湯器、給茶機、エアタオル等のプラグを可能な範囲でコンセントから抜く。		
	温水洗浄便座は、可能な範囲で保温、温水の機能を停止する。		
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長や節電モードへの切り替え等を行う。		
その他	ディスプレイの輝度を下げ、不要時は消灯する。		
	「クールビズ」を励行する。 デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		

【ご注意】

- ・記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する目安です。
- ・空調についての節電効果は電気式空調を想定しています。
- ・一定の条件の下での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・節電を意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。